

令和 5 年度 文化財係事業進捗状況

主要事業の進捗

古戦場公園再整備事業

1 東側ゾーン

- (1) 令和 5 年 9 月 6 日（水）にガイダンス施設建設工事の入札を行い、物価高騰の影響を受け、不調となりました。

その後、令和 5 年 12 月議会で 1 億 2,804 万 9 千円の増額補正予算が可決された後、令和 6 年 1 月 17 日（水）に再度入札を行い、株式会社宇佐美組名古屋支店が落札しました。

令和 6 年 3 月議会で契約議案の可決後、令和 6 年 3 月 22 日に本契約を締結しました。

※契約額：5 億 3,889 万円（税込）

工期：令和 6 年 4 月 1 日（月）から令和 7 年 6 月 30 日（月）

オープン時期（予定）：令和 8 年 3 月中

- (2) 国指定史跡長久手古戦場の本質的価値である「野戦場の雰囲気を感じさせる地形や眺望」を確保するため、築山切土造成工事を行いました。（別紙 2）

- (3) 史跡長久手古戦場保存活用計画に基づき、古戦場公園利用者の安全が危ぶまれる枯木、史跡地の通景を阻害している樹木及び古戦場の景観としてふさわしくない園芸種・外来種の伐採を行いました。

※高木 58 本、低・中木 1,936 本（別紙 3）

2 西側ゾーン

- (1) 古戦場公園の西側ゾーンに、昔ながらの長久手の暮らしや歴史民俗文化を後世に継承するために整備する歴史民俗資料館の基本設計業務を発注しましたが、古民家移築事業の内容を検討するのに時間を要したため、予算を令和 6 年度に繰り越しました。

- (2) 歴史民俗体験資料館の附帯施設として、岩作石田地内に現存する市内最古級の古民家を古戦場公園の西側ゾーンに移築するための古民家解体工事を発注しましたが、同事業の内容を検討するのに時間を要したため、

予算を令和6年度に繰り越しました。

- (3) 再利用可能な部材を確認しながら、古民家の解体工事を監理するとともに、部材の腐朽状態に応じて、令和4年度に作成した古民家建築工事設計図書を修正する古民家等解体工事監理業務を発注しましたが、同事業の内容を検討するのに時間を要したため、予算を令和6年度に繰り越しました。

(4) 古戦場公園再整備事業市民ワークショップの開催

古民家解体工事を市民と協働して進めるため、市民ワークショップを下記のとおり開催し、延べ76人が参加しました。

ア 7月30日（日） 参加者21人

古民家解体、移築にあたって、イベントとして市民ができる作業についての意見出しを行いました。

イ 8月19日（土） 参加者30人

前回のワークショップで意見を元に、「作業班」と「おもてなし・情報発信班」にグループに分かれて、各グループごとに作業内容を検討しました。また、グループ全体の代表者を選出しました。

ウ 9月16日（土） 参加者25人

古民家等解体工事請負業者の(株)中村社寺による「解体工事の手順及び古民家構造」の説明のほか、古民家解体イベントに向けて、イベント名、対象者、してみたいこと等について、グループワークを行いました。

- (5) 市長公約の「古民家移築事業の必要性を市民に問います。」を受けて、今一度、事業の実施について検討することになったため、現状を一旦整理して市民に説明する現状報告会を開催しました。

令和5年11月26日（日） 参加者 17人

- (6) 市長公約の「古民家移築事業の必要性を市民に問います。」を受けて、市民から古民家移築事業の必要性について意見を集約する意見交換会を開催しました。市が古民家移築事業の概要を説明した後、古民家移築に関心のある市民が登壇して、参加者の前で意見を述べ、参加者との意見交換を行いました。

令和5年12月23日（土） 参加者 51人

令和5年度 文化財係事業報告

1 文化財事業

(1) 長久手古戦場桜まつり

ア 国指定史跡長久手古戦場を広くPRするため、令和5年長久手古戦場桜まつりを令和5年4月9日（日）に開催しました。

場所：古戦場公園及び長久手中央2号公園

内容：各団体によるステージ発表、ブース出店、火縄銃の発砲及び弓道大会。

主催：長久手古戦場桜まつり実行委員会

（長久手市文化協会、長久手市商工会、長久手市スポーツ協会弓道部、社会福祉法人日本介助犬協会、一般社団法人長久手市観光交流協会、ボート長久手第1団、長湫警固祭り保存会、長久手市郷土史研究会及びあいち手作り甲冑サポート塾）

来場者数：約8,000人

イ 令和6年長久手古戦場まつり実行委員会（全7回予定）

9月21日（木）、11月7日（火）、12月20日（水）、令和6年1月24日（水）、2月9日（金）、3月22日（金）、5月22日（水）【予定】

(2) 文化財保護事業

ア 長久手市文化財保護審議会

	日 時	内 容	場 所
1	9月8日（金） 14：00～15：10	(1) 市指定文化財の指定候補について (2) 令和5年度事業進捗について	長久手市文化の家 展示室
2	3月27日（水） 14：00～	(1) 指定文化財候補資料の調査結果報告について（別紙4-1、4-2） ※韋駄天立像（前熊寺所蔵）及び奉納刀（景行天皇社所蔵）について、文化財の市指定を目指すことになりました。 (2) 令和5年度事業報告について (3) 令和6年度事業計画（案）について	長久手市文化の家 企画室A・B

イ 史跡整備事業

(ア) 古戦場公園史跡等維持管理工事

国史跡長久手古戦場始め9箇所の除草、剪定、草刈等

(イ) 指定史跡地清掃業務委託

古戦場公園、武蔵塚、首塚、長久手城趾、木下勘解由塚、神明社第2号墳及び三ヶ峯第3号窯

(ロ) 印刷物

長久手市文化財マップ 2,000部増刷

色金山歴史公園古戦場公園パンフレット 3,000部増刷

史跡めぐりパンフレット 5,000部増刷

りにも！ほとぎのさとへ 2,300部増刷

ウ 文化財保存事業

(ア) 指定文化財保存修復事業補助金

市指定文化財の保護、修繕等に補助金を交付

1事業の限度額500,000円（実績なし）

(イ) 警固祭り補助金

1地区の限度額2,000,000円×1地区（長湫地区）

10月8日（日）に実施されました。

(ウ) 長久手市文化財の継承又は伝承事業に係る補助金

前熊古典芸能保存会（前熊太鼓打ち囃子）69,000円

前熊の山車保存会（前熊山車曳き回し）31,000円

前熊のお天王祭りは、7月9日（日）に実施されました。

(エ) 左義長報償金

10,000円×2団体＝20,000円

令和6年1月14日（日）に岩作長鶴地内でボーイスカウト長久手第1団が実施しました。

令和6年1月14日（日）に岩作壁ノ本高根橋下流河川敷で岩作左義長有志の会が実施しました。

エ 緊急発掘調査

遺跡の範囲確認調査及び試掘調査の案件はありませんでした。

(3) 文化財啓発事業

ア 長久手市郷土資料室特別展

大河ドラマ「どうする家康」で小牧・長久手の戦いの放送時期に合わせ、「小牧・長久手の戦い」や家康の家臣として著名な酒井忠次、本多忠勝、榊原康政及び井伊直政の特別展を開催することで、国指定史跡長久手古戦場や「小牧・長久手の戦い」の重要性を広く周知しました。

また、愛知県立芸術大学に制作を依頼している「長久手合戦図屏風の複製模写」や、古戦場公園再整備事業の周知も行いました。

テーマ：小牧・長久手の戦いと徳川四天王

期 間：令和5年8月22日（火）～10月15日（日）

場 所：長久手市郷土資料室

来場者数：5,969人

(7) 特別展関連イベント：長久手古戦場宵まつり

日 時：令和5年8月20日（日）午後5時30分から

場 所：古戦場公園

内 容：大河ドラマ「どうする家康」パブリックビューイングとNHK演出統括によるプレトーク・アフタートーク、長久手高校吹奏楽部、岩崎城刀劇隊のパフォーマンス、飲食物販売、郷土資料室のナイトミュージアム、特別展プレオープン等

主 催：長久手市

協 力：一般社団法人長久手市観光交流協会

来場者数：約2,000人

(4) 特別展関連イベント：大河ドラマ「どうする家康」パネル展

期 間：令和5年9月28日（木）～10月8日（日）

場 所：長久手市郷土資料室

内 容：番組紹介パネルや出演者全身パネルを展示

主 催：一般財団法人NHK財団

後 援：NHK名古屋放送局

協 力：愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会、長久手市

2 長久手古戦場野外活動施設事業

(1) 利用状況

ア 令和5年度利用人数

※差＝令和4年度との差

月	開室 日数	利用者数			
		郷土資料室	弓道場	計	1日あたりの利用者数 (小数点以下四捨五入)
4	26	9,354	741	10,095	388
5	26	1,585	559	2,144	82
6	26	1,164	556	1,720	66
7	27	1,579	476	2,055	79
8	26	3,330	508	3,838	148
9	26	2,657	587	3,244	125
10	26	2,458	624	3,082	119
11	26	3,094	534	3,628	140
12	23	1,331	438	1,769	77
1	23	765	417	1,182	51
2	25	724	499	1,223	49
3	27	722	554	1,276	47
計	306	28,763	6,493	35,256	115
差※	±0	14,815	1,015	15,830	52

イ 令和4年度利用人数

月	開室 日数	利用者数			
		郷土資料室	弓道場	計	1日あたりの利用者数 (小数点以下四捨五入)
4	26	1,505	453	1,958	75
5	26	1,402	558	1,960	75
6	26	770	584	1,354	52
7	27	583	477	1,060	39
8	26	750	414	1,164	45
9	26	751	456	1,207	46
10	26	981	472	1,453	56
11	26	1,073	456	1,529	59
12	23	702	395	1,097	48
1	23	966	354	1,320	57
2	24	1,544	402	1,946	81
3	27	2,921	457	3,378	125
計	306	13,948	5,478	19,426	63

(2) 和弓場

ア 利用日

火曜日～日曜日

イ 利用時間

9:00～17:00(事前申込みがあれば21:00まで(日曜日・祝日を除く。))

3 色金山歴史公園茶室管理棟運営事業

(1) 利用状況

令和5年度利用状況

※差＝令和4年度との差

月	開室 日数	利 用 者		
		来所者	抹茶利用者	1日あたりの抹茶利用者 (小数点以下四捨五入)
4	26	1,063	874	34
5	26	1,034	809	31
6	26	999	758	29
7	26	793	577	22
8	26	830	579	22
9	26	1,166	907	35
10	26	1,375	1,065	41
11	26	1,826	1,415	54
12	23	1,101	888	39
1	23	900	681	30
2	25	965	762	30
3	27	1,103	904	33
計	306	13,155	10,219	33
差※	6	3,041	2,449	7

令和4年度利用状況

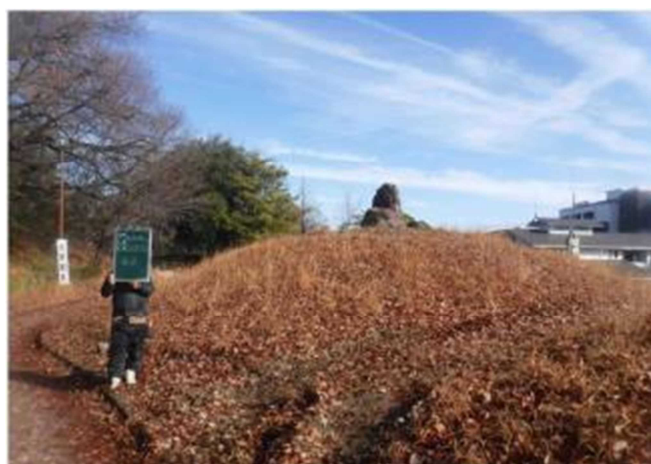
月	開室 日数	利 用 者		
		来所者	抹茶利用者	1日あたりの抹茶利用者 (小数点以下四捨五入)
4	26	791	601	23
5	26	962	697	27
6	23	663	501	22
7	24	592	415	17
8	26	577	425	16
9	26	726	547	21
10	26	1,030	779	30
11	26	1,201	994	38
12	23	822	651	28
1	23	717	570	25
2	24	962	761	32
3	27	1,071	829	31
計	300	10,114	7,770	26

※令和4年度は、空調機器取替工事のため、令和4年6月27日(月)から7月4日(月)まで休館。

(2) 色金山歴史公園樹木伐採工事

災害時の倒木等の危険性を鑑み、令和6年1月から2月にかけて、色金山歴史公園南側県道沿いの斜面の樹木を伐採・剪定しました。また、同時に東側斜面の草刈りも実施しました。(別紙5)

築山切土造成工事写真



着手前①



完了後②



着手前②



完了後②

古戦場公園樹木伐採写真



伐採前①



伐採後①



伐採前②



伐採後②

韋駄天立像（前熊寺所蔵）調査報告書

前熊地区の前熊寺に祀られている韋駄天立像^{いだてんりゅうぞう}（16.0cm）は、頭上に兜と
思われる突起が彫られ、長髪である。合掌して岩座^{いわざ}に立つ。背銘はない。
顔は眼球を突出させ、大きい鼻、口もとに微かに笑みがみられる。これ
らは円空の天部像の特有の表情である。額、頬全体に皺^{しわ}が刻まれている。
上下に連なった衣であり、左右を鰭状^{ひれ}に刻むのも円空仏の特徴であり、
本像は真性の円空仏と認められる。長久手市には本像の他に、杵ノ洞の
 永見寺に円空の薬師如来（36.0 cm）が安置され、昭和 59 年に長久手市の
 指定文化財に指定されている。

尾張旭市の庄中観音堂（尾張旭市渋川町）は、尾張旭市指定文化財円
 空仏 5 体（観音菩薩^{かんのんぼさつ}123.0 cm、不動明王^{ふどうみょうおう}92.8 cm、毘沙門天^{びしゃもんてん}91.5 cm、
 阿弥陀如来^{あみだにょらい}67.4 cm 薬師如来 54.8 cm。5 軀ともに昭和 56 年に尾張旭市
 の指定文化財に指定。）が安置されている。庄中観音堂は、前熊寺・永
 見寺の北西、およそ 5km 程の距離である。また、現在、岡崎市の木曾御
 嶽本教開基講満教会（岡崎市河原町）に祀られている不動明王三尊（不
 動明王 70.7cm、制吒迦童子^{せいたかどうじ}37.5cm、矜羯羅童子^{こんがらどうじ}36.5cm。未指定文化
 財。）は、もともと、日進市岩崎地区の山中の祠に祀られていた像であ
 り、日進市岩崎地区は、前熊寺及び永見寺の南西約 5km に位置する。前
 熊寺及び永見寺は、庄中観音堂と日進市岩崎の中間点にあり、地理的に
 みれば円空が巡錫^{じゅんしゃく}（布教のためにめぐり歩くこと）したと思われ、両寺
 の像はいずれも当地で造像されたと考えられる。

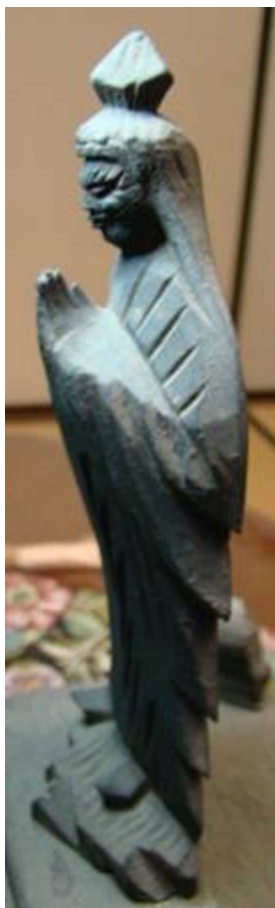
庄中観音堂は、名古屋市守山区龍泉寺に近く、同観音堂には延宝 4
 （1676）年の背銘がある馬頭観音菩薩立像^{ばとうかんのんぼさつりゅうぞう}（112 cm。未指定文化財。）が
 安置されている。庄中観音像と龍泉寺の像はよく似ており、庄中観音堂
 諸像の造像は延宝 4 年前後と推定されている。

前熊寺及び永見寺の円空仏は、龍泉寺、庄中観音堂、日進市岩崎地区
の巡錫経路に位置づけられ、強い彫りと豊かな表情の様式観点と合わせ
て、延宝 4（1676）年頃の造像と考えられる。

円空学会理事小島梯次・記
 （令和 5 年 11 月 8 日調査）



像背面



右側面



左側面



頭部及び胸部拡大

参考①

長久手市指定文化財 木造薬師如来坐像（円空仏）（永見寺所蔵）



参考②

尾張旭市庄中観音堂の円空仏（平成 29 年に尾張旭市に寄贈され、現在はスカイワードあさひ所蔵。）



寸法									
木造 阿弥陀如来坐像		木造護法神 （多聞天）		木造 聖観世音菩薩立像		木造 不動明王立像		木造 薬師如来坐像	
全高	68cm	全高	91.5cm	全高	124cm	全高	91cm	全高	54.5cm
台座	26.5cm	台座	11cm	台座	21cm	台座	12cm	台座	12.5cm
面幅	9.5cm	像高	80.5cm	面幅	13.5cm	像高	79cm	面幅	9.5cm
像高	41.5cm			像高	103cm			像高	42cm
膝張	29.5cm			裾張	31cm			膝張	31.5cm

左から木造阿弥陀如来坐像 木造護法神（多聞天） 木造聖観世音菩薩立像 木造不動明王像立像 木造薬師如来坐像

進物太刀（景行天皇社所蔵）調査報告書

1 概要

長久手市西浦に鎮座する景行天皇社に伝わる進物太刀しんもつ た ち よんふり四口ふりである。二口は、太刀が失われてしまっており、鞘さやのみしか残っていない。残っている太刀は「ツナギ」と呼ばれるもので、刀がない状態でも柄つかと鞘さやがバラバラにならないように維持しておくための部品である。「ツナギ」は折り返し鍛錬をせず、焼きも入れていないため、刃、刃文及び銘もなく脆い。そのため銃砲刀剣の登録も不要である。

2 各太刀（付属品含む）の寸法等

- (1) 進物太刀しんもつ た ち（皺韋包しほかわつつみ風黒塗鞘糸巻太刀ふうくろぬしやいとまき た ち）江戸時代 17 世紀

※皺韋包：しわのようなでこぼこの韋で包んでいる包み方。

総長 106.5 cm 柄長つかちょう 21.2 cm 鞘長さやちょう 84.5 cm

ア 鐔（木製）

縦 9.4 cm 横 6.9 cm 耳厚 1.0 cm

もっこうがたもっこうがた 覆輪ふくりん（真鍮製）しんちゅう、切羽せつばは欠損。

イ 柄

ぬのきせぬのきせ 紫糸巻むらさきいとまき（但し糸欠損、現状麻苧あさおにて仮巻き。）

ウ 鞘（木製）

しほかわふうくろうるしぬりしほかわふうくろうるしぬり わたりまきわたりまき
皺韋風黒漆塗、渡巻 現状は露見している木地に微かに布の付着痕あり。

エ 金具等

かぶとがねかぶとがね さるでさるで せめがねせめがね こじりこじり しばびきしばびき あまおおいあまおおい しんちゅうしんちゅう あおいからくさあおいからくさ
兜金、猿手、足、責金、鐙、芝引、雨覆（真鍮製）、葵唐草
もんうちだしもんうちだし
文打出

オ 緒所

おびとりおびとり しんちゅうあおいもんうちだししんちゅうあおいもんうちだし しんちゅうむもんかわしんちゅうむもんかわ
帯取（布痕あり）、太鼓金 1 真鍮葵紋打出、真鍮無文革先金
物 1、太刀緒欠、

カ 「ツナギ」（鉄製）

刀身部長さ 21.9 cm 茎部 9.1 cm 孔無し

はいうらはいうら
（佩裏に「四」と墨書あり。）

キ その他 紙製紫柄糸の残欠あり(30 cm程度 2 本)

蓋表に「徳川家康奉納木太刀」、蓋裏に「平成十年三月吉日 調製」と墨書のある桐箱に収まる。

(2) 進物太刀残欠(皺韋包風黒塗鞘) 江戸時代 17 世紀

鞘長 84.6 cm

ア 鞘 (木製)

しばかわつつみふうくろぬり 皺韋包風黒塗、わたりまき 渡巻 もえぎぢにしきぎ 萌黄地錦着 紫糸(紙製)残置

イ 金具等

鞘口・足・せめがね 責金・こじり 鑑・しばひき 芝引・あまおおい 雨覆 しんちゅうあおいからくさもんうちだし 真鍮葵唐草文打出

ウ 緒所

帯取(欠損)、太鼓金(一の足に一つ) 真鍮葵紋打出、

エ その他

蓋表に「徳川家康奉納木太刀」、蓋裏に「平成十年三月吉日調製」と墨書ある桐箱に収まる。

(3) 進物太刀(しばかわつつみふうくろうるしさいとまきたち皺韋包風黒漆鞘糸巻太刀) 江戸時代 17 世紀

総長 107.5 cm 柄長 21.0 cm 鞘長 85.0 cm

ア 鐔

縦 9.6 cm 横 7.0 cm 耳厚 1.1 cm

イ 柄

布着、紫糸巻残存

ウ 鞘 (木製)

しばかわつつみふうくろうるしぬり 皺韋包風黒漆塗、わたりまき 渡巻 布着紫糸巻残存

エ 鐔 (木製)

もっこうがた 木瓜形 ふくりん 覆輪 (しんちゅう 真鍮製)、切羽なし

オ 金具等

兜金・縁・鞘口・足・責金・鑑・芝引・雨覆 真鍮葵唐草文打出

カ 緒所

帯取は欠損、太鼓金(二の足に一つ) 真鍮葵紋打出

キ ツナギ(鉄製)

刀身部長 22.2 cm(柄から抜かず茎長の計測と孔確認できず。)
(佩裏に「二」と墨書あり。)

ク その他

蓋表に「徳川家康奉納木太刀」、蓋裏に「平成十年三月吉日 調製」と墨書ある桐箱に収まる。

(4) 進物太刀残欠^{しばかわつつみふうくろぬりさやほか} (皺韋包風黒塗鞘他) 江戸時代 17 世紀

鞘長 84.5 cm

ア 鐔^{つば}

縦 9.4 cm 横 6.9 cm

イ 鞘^{さや} (木製)

皺韋包風黒漆塗、渡^{わたりまき}卷欠損 布着痕あり

ウ 鐔 (木製)

木瓜形、覆輪^{もっこうがた} (真鍮^{しんちゅう}製)、切羽なし

エ 金具等

鞘口・足・責金・鐙^{こじり}・芝引^{しばひき}・雨覆 真鍮葵唐草文打出

オ 緒所

帯取 (欠損)、但し箱内に一の足の帯取、太鼓金欠損

カ その他

蓋表に「徳川家康奉納木太刀」、蓋裏に「平成十年三月吉日 調製」

と墨書のある桐箱に収まる。同箱内には真鍮葵^{しんちゅうあおいもん}紋打出の太鼓金二つと葵紋三双目貫 (一組と片目貫)、真鍮無文の革先金物二つが残存。

また、^{おおたらしひこおしろわけのすめらみこと}「大足彦忍代別天皇 (= 景行天皇) 安政五年^{つちのえうま} 戊午十一月^{にじゅうろく} 廿六日」と細筆で墨書された縦 111.5 cm、横 82.0 cm、上部に乳が四か所あり。麻地に金糸の帳状の物が畳まれて収められている。

3 所見

進物太刀とは、上がり太刀・遣い太刀^{つか}・造り太刀・進上太刀・献上太刀などともいい、献上する太刀の代わりとして鳥目^{ちょうもく} (お金) と共に奉納された模造の太刀拵である。

天保三 (1832) 年に^{てんぼう}祠人^{じにん} (神社を管理する在地の人。) 青山助太夫^{あおやますけだゆう}が尾張藩の寺社奉行へ書き上げた景行天皇社の「由緒書」 (長久手市所蔵の^{ほその}細野要齋^{ようさい}『長湫記附録』に「写」が所収) によれば、同社への太刀献納記述が三例見られる。

① 天正十二 (1584) 年九月に織田信雄、十月に徳川家康

② 慶長九 (1604) 年正月に松平忠吉^{ただよし} (家康の四男。初代清洲藩主。)

③ 元和八 (1622) 年に徳川義直^{よしなお} (家康の九男。初代尾張藩主。)

このうち、①の信雄・家康の太刀は^{まんじ}万治年中 (1658~61) に盗難にあったこ

と、②は追って御内意により差上げ(返戻)たとの記述がみられる事から現在
伝わっている四口^{ふり}には当たらず、③には「右御備之御太刀、追而藤田民部殿^{みぎおんそなえのおんたち おってふじたみんぶどのを}
を以御内意ニ而被召上、惣御紋付御金物作御太刀御納相成(下略)」との^{もってごないい てめしあげられ そうごもんつきおんかなものづくりのおんたちおんおさめあいなり}
記述がある。また、追って遣わされた藤田民部^{ふじたみんぶ}とは、家康、忠吉、義直に使
えた藤田民部少輔安重^{ふじたみんぶのしょうやすしげ}(永禄元(1558)年～寛永十二(1635)年。父の代か
ら徳川氏に仕え、小牧・長久手の戦いや大坂の陣で戦功を挙げたと伝わって
いる。松平忠吉に仕えて国奉行を務め、次いで義直に仕えた。)とも考えら
れ、時代的には齟齬がない。そのため、伝わっている四口^{ふり}は、③の元和八
(1622)年に徳川義直が太刀を奉納した後に、その代替として納められた進
物太刀「惣御紋付御金物作御太刀」の可能性が高い。その数が四口^{ふり}となつた
のは、信雄、家康、忠吉の三口^{ふり}を含めての処置であったためであろうか。「ツ
ナギ」の「二」と「四」墨書は、当初は四口^{ふり}すべて揃っている時点で、区別
するために書かれたものと推測される。(但し、盗難の真偽や要齋が神社を
訪ねた当時の伝承への考証等が必要である。)

そもそも、進物太刀は、その用途から概ね仕様は極めて粗略で現在まで残
っているものが少ない。完全な状態のものは、幕末頃製作と鑑定されている
物がわずかに知られる(東京国立博物館所蔵)程度にすぎない。その点、本
点は残欠を含むが、「惣御紋付御金物」^{そうごもんつきおんかなもの}の同仕様で四口^{ふり}が揃っている点と
由緒書によりその制作年代が江戸時代初期にまで遡る可能性が高く、「ツナ
ギ」という刀身の代わりとなるものが、幕末頃制作の物に見られる木製でな
く鉄製であることも管見では類品がなく、また前掲の『長湫記附録』には当
時の写生図(要齋の息子の一徳筆)も存しており、進物太刀の研究上極めて貴
重である。

愛知県銃砲刀剣登録審査委員 福井款彦 記
(令和5年11月16日調査)



参考

進物太刀（東京国立博物館所蔵） 2 口

江戸時代 19 世紀

くろうるしいとまきたち

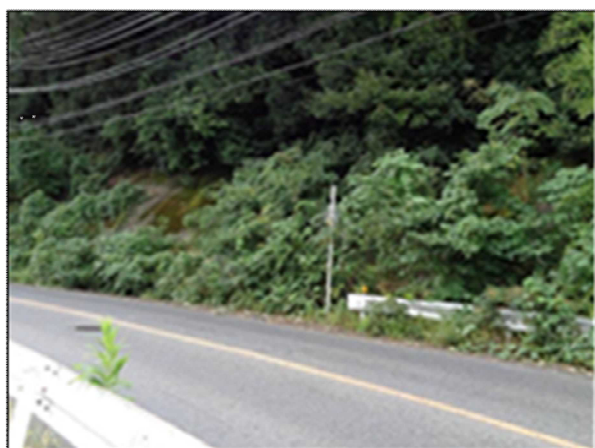
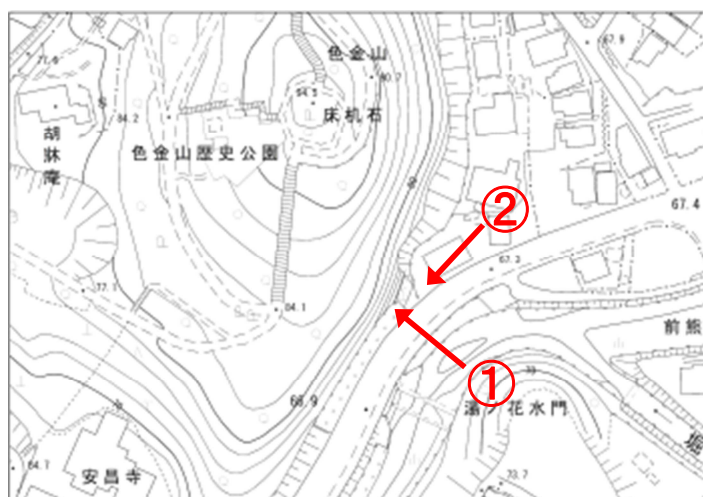
黒漆糸巻太刀 総長 95.3 cm

くろしぼかわつつみいとまきたち

黒皺韋包糸巻太刀 総長 103.4 cm



令和 5 年度色金山歴史公園樹木伐採工事写真



伐採前①



伐採後①



伐採前②



伐採後②